

## 令和5年度特別支援学校による幼稚園、小・中学校への地域支援の実施状況

		5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計(のべ数)
実施回数		0	184	39	115	50	44	12			444 (回)
実施園校数		0	177	39	113	50	43	12			
実施校の内訳 (回数は年間)	1回目	0	170	36	91	38	31	8			374 (校)
	2回目	0	7	2	20	10	9	3			51 (校)
	3回目以上	0	0	1	2	2	3	1			9 (校)
訪問教員数		0	229	48	127	56	53	12			525 (人)
参加教員数		0	1109	171	723	278	285	101			2667 (人)
対象幼児児童生徒		0	234	46	133	80	57	20			570 (人)

※年間の実施園校数の見

## 対象幼児児童生徒の内訳

		5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計(のべ数)	割合
発達障害	LD	0	1	1	0	0	1	0			3 (人)	0.5%
	ADHD	0	22	6	9	9	6	1			53 (人)	9.3%
	高機能自閉症等	0	53	14	34	19	7	3			130 (人)	22.8%
	(小計)	0	76	21	43	28	14	4			186 (人)	32.6%
障害種別	知的	0	61	6	43	27	21	8			166 (人)	29.1%
	肢体	0	17	3	6	3	4	1			34 (人)	6.0%
	難聴	0	11	3	4	1	0	0			19 (人)	3.3%
	弱視	0	9	2	1	0	1	2			15 (人)	2.6%
	言語	0	1	0	0	0	2	0			3 (人)	0.5%
	病弱	0	2	0	0	0	0	0			2 (人)	0.4%
その他		0	57	11	36	21	15	5			145 (人)	25.4%
合計		0	234	46	133	80	57	20	0	0	570 (人)	

## &lt;幼稚園、小・中学校の所感&gt;

○UDの視点を持ち改善していくことが、対象生徒だけではなく全生徒にとって、分かり易く過ごしやすい学級になると感じた。指導していただいた内容を、校内で共通理解し、全職員での対応を継続していきたい。

○現在の指導は間違っていないという言葉をいただけた。そのため、今の指導をきちんと学校全体で共有して記録として残していくことを大切にしたい。

○これまでの自分たちの指導を振り返り、できている点と心配な点が出てきた。特に本校職員の心配な点として、子供との信頼関係を構築しようと努力できているのかである。こちらの都合を優先してしまい、子供と話をする時間を確保し、傾聴、共感、理解に努めているのかを今一度確認していきたい。

## &lt;特別支援学校の所感&gt;

○多くの学校で特別支援教育の知識がある教員が特別支援学級を担当しており、経験を生かした学習指導及び生活指導をされていた。多くの方が、これまでの指導・支援の方向性が適切かどうかを確認したかったと話され、改善点とともに授業内容や対応方法で工夫していた点や配慮していた点を具体的に伝えるようにした。支援・指導検討会、巡回相談を通して特別支援教育への理解が進んでいることを実感できる面が多かった。

○各校の特別支援教育コーディネーターが特別支援学級だけでなく、通常の学級において支援を要する児童生徒についても把握しており、学校全体でサポートしながらよりよい指導・支援ができるように取り組んでいる学校が増えたと感じた。

○自閉症スペクトラム症の児童生徒への理解は以前より進んでいるように感じられたが、ADHDの児童生徒の問題行動への対応に困っている学校が増えてきたように思う。ADHDを含む発達障害についての基本的な特性を伝え、現状の中で実践できそうなことを、できるだけ具体的にアドバイスするよう心掛けた。